

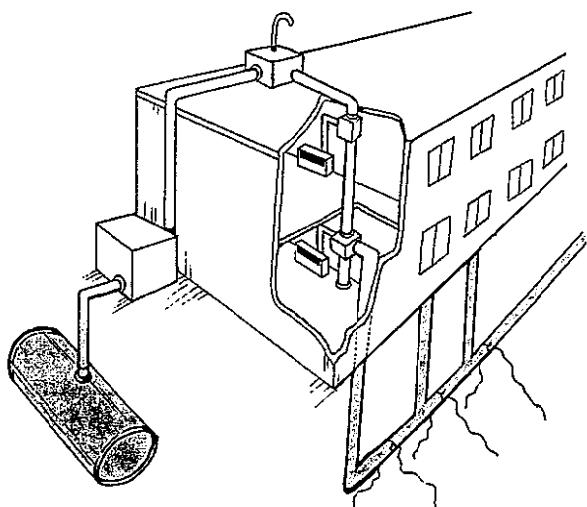
平成25年8月1日

## 危険物施設の事故事例

## 平成24年の県内事故から

平成 24 年に新潟県内で発生した事故 40 件（流出 30 件、その他 10 件）の事故例から、事故防止や被害拡大防止に参考となると思われるものを 10 件選定しました。

## 1 平成24年に新潟県内で発生した主な事故事例



対 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異常があることがわかったときは、早急に必要な措置を行なわなければなりません。（消防等関係機関への通報、被害拡大防止のための応急措置。）</li> <li>・老朽化した設備は、適切に診断を行って事故が発生する前に更新する。</li> <li>・点検や確認を行い難い配管等は、更新と併せて容易に確認できる構造とする。</li> </ul>
-----	---

### 事故事例を活用しよう！！

安全対策には、自社で起こり得る事故をしっかりと想定しておくことが第一歩であり、この想定のためには、実際に起きた事故の情報が役立つことは言うまでもありません。また、この想定に基づいて行う教育訓練が、実際に発生してしまった時の被害を軽減することにも役立ちます。

ついでに、根拠もないのに「自分の事業所では事故が発生しない」と思っていませんか？ 危険物を取り扱っていれば潜在的な危険性は必ずあり、また人間が取り扱っている以上、ミスを完全に防止することはできないので、事故の危険性は避けて通れない問題なのです。

過去の事故事例は最も学びやすい教材です。是非、従業員の教育、訓練に利用して、事業所の安全のために役立ててください。

なお、県内事故事例につきましては、防災局消防課の監修をいただきました。



事例	7	事故名	移動タンク貯蔵所への注油時の手順を簡略化したことによる流出事故					
発生施設		一般取扱所	事故種別	流出	発生年月	平成24年7月	関与危険物	灯油
事故概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>2室に分かれた移動タンク貯蔵所へ灯油を注油する際、2室同時に注油しようとして両室の底弁を開放して2室の総量を計量器にセットし、一方のタンク室のマンホールから注油を開始してその場を離れた。</li> <li>マンホールから灯油があふれ、それを発見した者が緊急レバーを引いたため更に流出量が増加した。(流出量は、約160ℓ)</li> </ul>						
事故原因		<ul style="list-style-type: none"> <li>2室への同時注油は底弁を開放するため、流出する危険性が高くなる行為であるにも係らず日常的に行っていた。この時は底弁の開度が不十分であったため、注油していたタンク室から、もう一方のタンク室へ灯油がうまく流れなかつたために、注油していたタンク室のマンホールから流出したと推定。</li> </ul>						
対策		<ul style="list-style-type: none"> <li>2室同時注油は行わないことを作業手順書に明記して、遵守する。</li> <li>注油中はその場を離れない。</li> <li>移動タンク貯蔵所の構造を理解し、緊急時に行うべき操作を理解する。</li> </ul>						

